

令和7年度 西東京市立明保中学校 学校評価報告書

学校教育目標 校訓: 考える学校 ～皆で一緒に考えながら、素敵な学校にしていこう～
教育目標: すすんで学び 心身ともに健康だ 思いやりのある人になる

目指す学校像(ビジョン)

- 【目指す学校像】 考える学校: 生徒や教職員が行きたくなる学校
- 【目指す児童・生徒像】 考える生徒: 自ら考え、自分の思いや考えを人に伝えることができる生徒
- 【目指す教師像】 考える教師: 生徒のためにより良い方法を考え、提案できる自主性のある教職員

前年度までの学校経営上の成果と課題

| | 具体的方策 | 第1回評価 | 課題と対策 | 第2回評価 | 学校関係者評価 | 課題と次年度以降の対策 |
|-------------|---|-------|--|-------|--|--|
| 健全育成 | 生徒一人一人の状況を把握し、それぞれの得意分野が発揮できる場を設け、他者との交流を通して自己の成長を実感できるようにする。 | 3.2 | 授業だけでなく、委員会、当番活動や部活動などを通して、生徒一人一人の状況を把握するように意識している。さらに生徒理解を深めるために教員同士の情報交換を活発にしている。 | 3.5 | 運動会、合唱コンクール等の行事で生徒のやる気が感じられて、生徒と先生方がよく連携して進行されていると思いました。 | 運動会、合唱コンクールなどの学校行事や委員会、係活動、当番活動などでそれぞれの生徒が得意分野で力を発揮できるように指導する。そのために教員同士の情報交換や生徒一人一人の丁寧な見取りが必要である。 |
| | 役割・権限を委譲し、「創造力」「調整力」のあるリーダーを育成し、学級・学年集団としての力量を高める。 | 3.2 | 運動会、合唱コンクール、校外学習、修学旅行などの行事で生徒主体の活動の機会を増やして、リーダーの育成を目指している。多くの活躍の場を通して、リーダーとしての自信をつけ、集団を引っ張っていける生徒を育てる。 | 3.4 | | 学校行事ではリーダーの育成の機会として来年度も重要なものとする。力はあってもまだ発揮できていない生徒もいる。学級、学年経営の中で新たなリーダーの発掘と育成が課題である。 |
| 学力向上 | 各教科の特質に応じた体験活動を意図的・計画的に実施し、生徒が「分かった」「できた」「次が楽しみ」と思える授業を行う。 | 3.3 | 授業では1人1台端末を活用したり、教科の特性に応じた体験活動を取り入れたりしながら、生徒の興味、関心を引き出している。さらに積極的に研修に参加し、授業の工夫を図っていく。 | 3.5 | 先生方の働きかけを生徒がきちんと受け止め、頑張っていることが分かり、学校生活が落ち着いている様子がよく分かりました。考えを深め、まとめる機会を増やすことや読書の習慣づけを働きかけていただきたいです。 | 自主的に研修に参加したり、他校の授業見学をしたりしながら、授業改善に努めている教員もいる。生徒が充実した授業を受けられるように授業改善の努力が必要な教員に対しては指導、助言をしていく。 |
| | 「考える時間」「相手に伝える時間」「考えを交流する時間」を授業に取り入れ、自分の考えを明確に説明できるようにする。 | 3.5 | 校内研修で相互授業参観を行い、グループ学習、自由進度学習、ICTの活用などを研究している。継続して、研究を進め、生徒が自分の考えを明確に説明できるように進めていく。 | 3.6 | | 校内研修での相互授業参観を通して教員の授業改善への意識が高まった。「考える時間」「相手に伝える時間」「考えを交流する時間」を授業に取り入れることはかなり定着しているので継続していく。 |
| 不登校・いじめ防止対策 | 生活指導主任、教育支援コーディネーターを核とした組織的な教育支援体制を構築し、生徒の心に寄り添った指導・支援を行う。 | 3.4 | 週1回実施の教育支援校内委員会において、関係機関からの情報や対応方針を共有している。学校からの具体的な情報発信を関係機関に積極的に行い、協働体制を強めていきたい。 | 3.4 | 個別対応が必要な生徒については保護者とも具体的な相談が必要だと思います。子どもへの支えが不十分な家庭の不登校生徒には特段の配慮をお願いしたいです。 | 週1回の教育支援部会で生徒の情報交換を密に行い、初期対応や対応方針について共有している。関係諸機関との連携もスムーズに行われている。SSWや不登校対応巡回教員、学校生活支援員とも来年度はより協働体制を強めていく。 |
| | 西東京あったか先生プロジェクトを推進し、生徒の可能性を信じ、支え、励ます指導を心がけ、生徒との信頼関係を築く。 | 3.6 | 多くの教員が丁寧であたたかい言葉遣いを徹底できるように努力している。生徒の声を大切にした対応を今後も学校全体で継続して取り組む。 | 3.7 | | 教職員の言葉遣いに関しては保護者から約9割の肯定的回答があった。生徒個々の悩みや相談に丁寧な対応を求めている意見もあり、学校全体でより丁寧な対応をしていく。 |
| 社会に開かれた教育課程 | GIGAスクール構想を推進し、デジタル教科書、タブレット端末、テレビモニター等のICT機器を効果的に利活用する。 | 3.4 | ICT機器を積極的に取り入れ、教育活動を進めている。地域学校協働活動についても地域コーディネーターと連絡を取り、ボランティアスタッフとのやり取りもタブレットで行っている。 | 3.6 | タブレットが活躍していることはよいことですが、使えない場合の想定も必要だと思います。コミュニティ・スクールのあり方、地域と学校がどのように協働すべきかについては検討が必要だと思います。 | 授業では積極的にICT機器を活用し、様々な改善や工夫が見られた。今後も授業だけでなく、アンケートや連絡もタブレットで行うなどさらなる効果的な利用を考えていく。 |
| | 学校運営協議会を充実させ、生徒・保護者・地域住民で行う協働活動を企画・実施する。 | 3.0 | 地域のまつりの会場になることが多いが、教員の参加は少ない。また、地域学校協働活動への考え方に教員間で差がある。コミュニティ・スクールとして学校経営方針の柱であることをさらに伝えていく。 | 3.0 | | 地域学校協働活動に関しては教員の肯定的回答が著しく低かった。地域に開かれた教育課程について理解を深め、コミュニティ・スクールとして学校経営方針の柱であることを伝えていく。 |
| 業務改善・働き方 | 教員各自がタイムマネジメント能力を向上させ、平日(課業日)に年1日以上、計画的に年休を取得できるようにする。 | 3.0 | 約30%の教員が計画的に年休を取得できていないと回答している。教員間の仕事の負担状況を把握し、年休がとりやすいようにアドバイスしていく。 | 3.0 | 先生方の年休が取りやすくなるように調整をお願いします。部活動の地域移行は外部コーチや指導員には生徒指導など難しいところもあります。生徒の活動への応援や人間関係、心身への目配り、気配りは続けていきたいです。 | 年休取得や定時退勤は教員により個人差がある。来年度もスクールサポートスタッフの効果的活用や計画的な年休取得、定時退勤を促し、働きやすい環境を整えていく。 |
| | 部活動改革推進期間、3年目における学校としての方向性を示し、保護者・生徒に理解を得ながら改革を進める。 | 2.9 | 部活動指導員を導入している部もあるが、募集をかけても指導員が見つからない場合も多い。引き続き、地域移行、地域連携の土台作りを継続する。 | 2.9 | | 部活動指導員、外部指導員の募集をかけても指導員が見つからないことが多かった。教育委員会と連携して地域移行、地域連携を進めていく。 |